

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號 四 第 卷 一 十 第

論 說

農業社會主義論(二)……………法學博士 河田 嗣郎

累進課税の弱點に就きて……………法學博士 神戶 正雄

支那古來の限田說……………文學士 小島 祐馬

價值論上のリカアドとマルクス(一)……………經濟學士 堀 經夫

人格主義の立場に於ける經濟と人生の(一)……………法學士 石川 興二

時事問題

排日問題に就きて……………法學博士 神戶 正雄

我海運政策に對する國民の反省……………法學博士 戸田 海市

雜 錄

三種の「資本論」邦譯……………法學博士 河 上 肇

世界戰爭と人口の變動……………法學士 汐見 三郎

朝鮮干瀉地利用論……………經濟學士 三田村 一郎

新著紹介……………法學士 汐見 三郎

續々發表せられる事と思ふが、兎に角、本書だけでは著者の消費經濟學建設の大抱負は遂に窺ひ得ないのである。次に本書には研究の結果のみを示し其研究方法に關しては殆んど記述を欠いてゐる。百の生計調査あつて一の信憑すべき調査方法の明にせられざるが我學界の現状である。此方面に於ても著者の蘊蓄を披瀝せられむことを望む。

以上二點は余の本書に對する望獨の感である。消費經濟學なる未開の原野を開拓せらるゝ著者の雄々しき態度を想ふ時、余は此勞作に深き敬意を拂ふのである。

◎改正所得稅法通義 藤澤弘著、四六判三九七頁 定價參圓、東京經濟社發行

本書は大藏省國稅課藤澤弘氏が大藏省參事官藤井眞信氏の校閱の下に著はされたものである。分ちて總論各論の二とす、總論は所得稅の概念と所得稅法の効力との二章よりなり、各論は十五章に分れたる逐條通義である。新稅法成立して間も無く此は各國所得稅制概要其他十ばかりの便利な統計表がある。かゝる重寶なる書物が、責任ある地位の人の手により著はされるのは、喜ぶべき傾向である。

◎人口問題と食糧問題 定價六圓八拾錢、東京弘道館發行

著者は東大文科の卒業生、本書は建部教授指導の下に著者の完成せる卒業論文を増補公刊せるものである。本文を分ちて汎論、序論、本論、策論の四篇とし、書中に四十九表二圖表を挿み、卷末の索引と共に讀者の便をはかつてゐる。

著者の意氣は大に壯である。「人口問題と食糧問題」をば、國家の生存及發展に關し必要其基調をなすこと認め、敢て是が解釋を企てられたのである。實に本問題の重要な事は、孰しも要論無き所であつて著者が此點に着眼せられた事は非常に面白き思ふのである。然し問題があまりに多岐にわたつた爲めか、論述表面的に流れ感傷的なる抽象文字を以て問題の原髓を逸し去るが如き、物足らぬ感も深い。特に「人口問題と食糧問題」と題しながら、食糧問題に關しては策論中單に申譯的の記述あるに過ぎざるが如きは遺憾である。然し著者の勞は人に多させればならぬ。堂々たる其體系を基本として眞摯なる統計的研究を積み、本研究を大成せられん事を望む。(夢見)

新著紹介

◎生活問題 法學博士森本厚吉著、菊判三九二頁 定價四圓、東京同文館發行

著者は、我國に於ける消費經濟學の權威である。其意見は、曾て、The Standard of Living in Japan なる英文の著書として、或は「日本最小生活費論」と題する、社會政策學會の講演に發表せられた事があるが、今や邦文の一冊の書物にまとまつたのを見ること、感興の新たなものがある。

氣付きし點を一二述べて置く。本書は第一章より第七章迄を總論とし、生活問題の基礎的觀念を説き、以下第八章より第十三章に至る各論に於ては、生活の三大要素なる衣食住を論じてゐる。然るに總論と各論とは、其間の聯續が頗る薄弱であつて、木に竹をついた感がある。いづれ別冊として、生活の他の要素、一定の收入、貧富の標準、最小生活費等に關する研究が